

としょかん 100周年 私と図書館 ~Vol.5~

2018年12月1日、鹿島市民図書館は100周年を迎えます。

図書館との思い出を募集中！
館内の応募箱またはメールにてご応募ください。
メールアドレス：kashimal@theia.ocn.ne.jp

記憶に残る「私と図書館」は、横田にある鹿島 中学時代に始まる。特別には「文学少年」ではなかった私が、当時指導教員であった従兄弟に誘われ、「図書委員」になった。普通の教室の中に作られた「図書室」は、その当時としては結構充実したものであったが、「新刊」の数は少なく本の多くが「古本」で、「図書委員」は本の修理も仕事の一つとしていた。修理するために手に取ったパール・バックの「大地」を、あまりよく理解できなかったが、むさぼり読んだのを覚えている。

鹿島高校に入学したら、転任していた従兄弟に又もや誘われ、その当時九州では最新の開架式図書館に通うことになった。ここでもまた、本の貸し出しだけでなく、裏方の「修理作業」もやった。

鹿島を離れてからの「貧乏学生」時代は、本を買う余裕もあまりなく、論文書きのための図書館利用だけだったし、東京オリンピックを境にしたテレビなどの普及で、私自身の読書量は減っていった。

その後、五木寛之の「青年よ荒野を目指せ」と、日本脱出を試みる若者が増え、私もそのひとりとなった。その当時のヨーロッパでは、日本語に触れる機会はほとんどなく、三日遅れの古新聞や月遅れの週刊誌などを友人間で「回し読み」し読み込んだものだ。

当地に定住してからは、知人友人からいただいた本や、旅行者が遺していった本などを少しずつ溜めており、小さな「私の図書コーナー」を作りたいと思っている。

そして、「徒然なか時には、かつて、受験のために読んだ「古文」を読みなおして、古文の先生に言われた「古文は読む時や、方言で考ゆっき良か！」を想い出している。

電子書籍の昨今でも、八十路を迎えた私の指には、「紙の本」のページをめくる方が向いているみたいである。

(オーストリア在住 久保様)

☆ 基本的に原文のまま掲載していますが、個人名は伏せております。

開館カレンダー

■・・・お休み

5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

● 開館時間 ●
平日：9時30分～19時
土日祝：9時30分～17時

● おはなし会 ●
会場：館内おはなしの部屋

- あんころもち (0～3才)
火曜 14時～
- おはなし会 (3才～)
土曜 14時～

としょかん日記

3/18の図書館講演会講師の壁画アーティスト ミヤザキケンスケ氏の「Over The Wallエクアドル壁画プロジェクト キックオフイベント」に行ってきました。今年はエクアドルの女性刑務所の壁に女性受刑者とその子ども達で壁画作成をされます。「絵という言葉を超えた表現手段で、遠い異国の地を身近に感じてほしい、とびきり明るい絵を描きたい」と笑顔で語っておられました。図書館では5/3～6に鹿島市民図書館100周年記念イベント「あじっばがとしょかんにやってくるー！」を行います。GWはアジアをたっぴり楽しみに図書館へお越しくださいね！(O)

鹿島市民図書館

一般財団法人
鹿島市民生涯学習・文化振興財団
佐賀県鹿島市大字納富分 2700-1
鹿島市生涯学習センター エイブル
http://www.library.city.kashima.saga.jp
Tel (0954) 63-4343
Fax (0954) 63-2217
2018年4月25日発行



QRコード



はじまるよ！本のカーニバル
2018・第60回 こどもの読書週間
4/23～5/12

5/3 (木) 4 (金) 5 (土) 6 (日)

あじっばがやってくるー！！

アジアの民族衣装体験やアジアの楽器に触れてみよう！
他にもぬりえや工作など、いろいろな体験ができる4日間☆



5/6 は九州国立博物館のスタッフによる解説もあります。

★期間中、5冊以上借りた方には、
100周年記念しおりをプレゼント★



「100年の歩み」

1918年(大正7年)12月1日に創立された藤津図書館(鹿島市民図書館の前身)は、1931年(昭和6年)3月24日に鹿島町立図書館になりました。所在地は変わりませんが、それまで国有地だった敷地は払い下げられて町有地になりました。藤津図書館時代は、運営母体の長である藤津郡教育会頭が館長を兼任していましたが、鹿島町立図書館では鹿島立教実業学校(現在の鹿島実業高校)の校長が兼務することになりました。初代館長には櫻井義暢氏、司書には北御門正夫氏が就任したと記録されています。当時の図書館は、館長と司書の2名で運営ということになっていますが、館長は兼務であったため実質的には司書が一人で切り盛りしていました。そのため、司書の病気や忌引きによる欠勤が理由で図書館が臨時閉館されたとの記録も残っています。

鹿島町立図書館は、市制施行される1954年(昭和29年)までの約23年間続きます。その間、第二次世界大戦を経験しますが、大戦は図書館の歴史にも暗い影を落としました。大戦に突入した1941年(昭和16年)の業務報告書には、「図書を通じ、時局認識と滅私奉公の精神を振作するに努力せん」との文言が特記されており、戦時下の図書館が国民の思想を誘導・統制する機関となっていた悲しい歴史を窺うことができます。

日本図書館協会は終戦後の1954年、このような図書館の負の歴史を反省し「図書館の自由に関する宣言」を出しました。これは、資料収集・提供の自由、利用者の秘密厳守、検閲反対などを骨子としており、図書館の本来あるべき基本的な姿勢を明文化したものです。鹿島市民図書館ではこの宣言書を返却カウンター奥の壁に掲示しています。

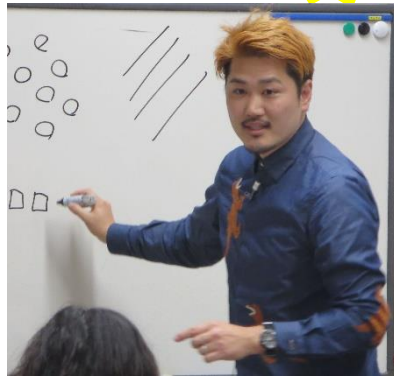
1954年4月1日、町村合併により鹿島市が誕生します。これに伴い、図書館も「鹿島市中央図書館」へと改称します。その後、1971年(昭和46年)に「鹿島市立図書館」となり、さらに2001年(平成13年)に「鹿島市民図書館」へ改称し現在に至っています。

図書館長 前田英明

ミヤザキケンスケさん 講演会&ワークショップ (2018.3.18 エイブル3階 研修室) **報告!!**

3/18(日)に佐賀県出身の壁画アーティスト「ミヤザキケンスケ」さんを講師に迎えて講演会とワークショップを行いました。

自分の将来像を目指し、それに向かって「勇気」を出して進んでいく。参加者は中学生が多く、将来について悩む時期のみんなにミヤザキケンスケさんのお話はとても響いたようでした。



★参加者のみなさんと制作した作品をヤングコーナーの壁面に飾っています！ぜひ観に来てくださいね♪

国立国会図書館長より、お礼状をいただきました！

図書館の業務の一つに、調べもの相談(レファレンス)があります。日々色々な相談を受け、資料を提供しています。全国の図書館で、他の方にも役立つ内容のものを国立国会図書館のレファレンス協同データベースに登録し、共有財産にしています。この度、当館は多くの事例を登録したとしてお礼状をいただきました。

これも利用者の皆様のおかげです。これからも調べものお手伝い、がんばります！

任命！ 『1日こども図書館長』

鹿島市民図書館 100周年を記念して、鹿島市内の新小学1年生から募集していた『1日こども図書館長』さんが決定しました！

能古見小 蒲原とうやさん
明倫小 宮本さくらさん



活動日：4/29(日)
9:00 ~ 11:00

※図書館の開館は9:30~

かわいい館長さんが図書館の仕事をがんばります。応援よろしくお願いします♪

祝 鹿島市民図書館 100周年

わ・わ・わぼっと

あはなし会

5月から子育て支援センターで図書館のおはなし会を始めます。

日時：毎月第3水曜日 午前11時~
毎月最終日曜日 午前11時~

場所：子育て支援センターわ・わ・わぼっと
対象：どなたでも参加できます。

おはなし会の後には…

その場で図書館カードが作れます！

また本も借りることができます。

★借りた本は子育て支援センターの返却BOXに返すことができます。

ぜひ、
ご利用ください！

寄付金で購入しました



市民の方からいただいた寄付金で、木製本棚、大型絵本用本棚、パネルシアター舞台、大型絵本(1冊)と絵本読み語り隊用の本(6冊)を購入しました。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

★絵本読み語り隊とは…
図書館の職員が市内の高齢者施設に訪問し、絵本や体操を通して交流する事業です。



郷土の偉人を顕彰！



鹿島市明治維新150年記念事業として、2冊の本が鹿島市より発刊されました！

◎『再発見 鹿島の明治維新史』(写真左)

明治維新に鹿島はどのように関わっていたのでしょうか。鍋島直彬公を中心に「篤誠院(柏岡夫人)」や「八沢棧之進」といった人物に新たに注目し、詳細に書かれています。

◎『田島勝爾の生涯と田島精神』(写真右)

「みかんの先生」として多くの人々に慕われた田島勝爾をご存知ですか。みかん栽培の先駆者として地域の人々に自らの経験を広めることに尽力した田島勝爾の生涯とその精神を顕彰します。

★鹿島市民図書館や6地区の公民館で読むことができます。みなさんもぜひ一読ください。

新しく届いた本

『極小農園日記』



荻原 浩：著
毎日新聞出版
家族に白い目で見られながらも庭の片隅で細々と続ける長年の趣味、家庭菜園。小さな戦場で季節ごとの一喜一憂を綴った爆笑奮闘記。直木賞作家の初のエッセイ集。

『白飯最高おかず』



堤 人見：著
成美堂出版
ご飯が最高においしく食べられて、しかも、作りやすいおかずを100点以上収録。おいしく作るためのちょっとしたコツや、基本的な下ごしらえ、調味料なども紹介します。思わず「おいそ〜♡」とため息がでてしまうような写真も満載。

『病気のサインは足裏で読む』



前澤 香苗：著
幻冬舎
ケガを機に「官足法」という足もみ法に出会った著者。著者自身の体験や足裏に出る病気のサインや、足と身体の見えないつながりを解説し、セルフ足もみ法を紹介します。体の不調を足もみで改善しませんか。

『漫画 鍋島直正』



佐賀県：編著
梓書院
佐賀藩主・鍋島直正はいかにして、財政破たん寸前の藩を立て直し、日本最速で近代化を遂げたのか。時代の荒波に果敢に立ち向かった直正の姿とその想いを漫画で描きます。

『かちがらす』



植松 三十里：著
小学館
佐賀藩主・鍋島直正は、日本を欧米列強の従属国にさせないために、反射炉の建設、大砲の製造、蒸気船の建造などの事業にいどんだ。その軍事力は、幕府側と倒幕派双方から求められ…。